



令和6年の新春を迎えて

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会 会長

竹内康雄 TAKEUCHI, Yasuo

(オリンパス株式会社 取締役 代表執行役 会長兼 ESG オフィサー)

令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。まずはじめに、1月1日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

令和5年は、生成AIが稀に見るスピードで進化を遂げ、仕事や生活の様々なシーンに浸透した1年でした。生成AIの技術は、ビジネスシーンにおいても業務効率・生産性の向上に繋がるとともに、様々な社会課題の解決に資することが期待される一方で、AI時代に求められる人材・スキルについて各種メディアで盛んに取り上げられ、議論されました。

AI時代を見据えた現代において、教育分野では新たな教育モデルとして「STEAM教育」が注目されています。SETAMとは、「Science (科学)」「Technology (技術)」「Engineering (工学)」「Art (芸術・リベラルアーツ)」「Mathematics (数学)」の頭文字をとった造語です。文部科学省の解説によるとSTEAM教育とは、各教科を単に学ぶこととはなく、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育とされています。STEAM教育のポイントは、科学技術の強化として基礎からモノ作りまでの専門性を高めるとともに、「創造性」を重視するため「Art」が盛り込まれている点にあります。これらの5つの要素を横断的に活用できるSTEAM人材は、今後の産業界において求められる人材とも言えます。今後AIが益々発達した情報化社会では、与えられた課題に対しては効率的に解を導き出すことが可能となる一方で、企業が追及するサステナビリティのためには、新しい価値提供を実現するイノベーションが不可欠です。イノベーションとは、人々に共感した社会の実現を目指して、課題そのものを潜在ニーズから発掘し、新たな切り口による解決策を創造することであり、これを実現する人材こそSTEAM教育の目指す特徴と重なるからです。

当協会における果たすべき重要な役割として、日本の光産業界の将来を担う人材育成強化があります。私共の提供する教育講座は、光学に関わる教養からモノ作りまで多岐にわたっており、各講座の講師は、アカデミックの第一線で活躍されている大学等の研究機関の方だけでなく、企業で長年実務を積んだ学識経験者が担当しています。例えば、『光応用技術研修会』は昭和38年以来、毎年開催（令和2年はコロナ禍により開催中止）され、累計受講者が10,400名を超える歴史のある講座です。昨年度の講座では、合計7日間の期間で28の講義を受講する構成となっており、若手技術者が光学に関する基礎知識を総合的・横断的に理解するための教育プログラムとなっています。また、令和5年度からは新講座『AIとオプティクス』を開設しました。本講座は、日本光学会 AI Optics 研究グループ様と協業して企画したものです。注目度の高いAI技術の基礎知識と光学分野に関連した応用事例を、本分野の最先端の研究者のから説明いただいております。私共が提供する講座を通して、時代にマッチした学びの場として活かしていただくとともに、講師や参加者との情報交換・交流により、参加者にとって各企業のイノベーションに繋がる新たなビジョン形成のきっかけになることを願ってやみません。

世界情勢の不安定さが高まるなか、企業の経営環境はこれまで以上に予測不可能なものとなっています。また、人々の働き方が劇的に変化しているなかで、企業は持続可能な経営を実現するために、人材

育成のあり方を常に問い続けていく必要があります。私共も日本の光学産業の持続的な国際競争力を強化するための教育プログラムとは何かを追求し、日本の発展モデルの実現の一助になりたい所存です。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、協会の運営及び活動に関しまして、平素より多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和 6 年が皆様にとって幸多き年になりますよう心よりお祈り申し上げ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。